

本時のねらい

・街の言語景観（街頭、公共施設、店舗などに見られる言語表記のこと）から、各自の課題設定にしたがって情報収集し結論づけたものを、発表資料としてそれぞれの方法で作成する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・本時まで撮影したり、友だちからもらったり、交流している台湾の学校から送ってもらったりした画像データを使い、自説の発表のためにオクリンク、Keynote、Wordなどを使って資料を作成する。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ iPad
- ・ Teams
- ・ Google 翻訳
- ・ AirDrop
- ・ PowerPoint
- ・ オクリンク
- ・ Keynote
- ・ Padlet
- ・ Word
- ・ iPad メモアプリ

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時までの確認 ○本時のやるべきことの確認	○それぞれの進捗状況をオクリンクで共有する。
展開 (35分)	○自分の仮説を裏づけするために、自分が集めた資料だけでなく、「応援団」(全員の集めた資料が保存されている共有フォルダ)も使い、結論へ導く。 【仮説】「このような言語景観になっている理由は、○○だから。」 ○途中でお互いの進捗状況や、やり方を共有する時間をとる。 ○似た考えの児童同士で話し合いながら進められるような座席配置も可とする。	○各自、自分で選んだ方法（オクリンク、Keynote、Word等）を進めるが、この日に進んだところまでの進捗状況を各自スクリーンショットで撮り、オクリンクで提出する。
まとめ (5分)	○振り返り	○進捗状況と振り返りを連結させてオクリンクで提出し、友だちの振り返りも見られるようにする。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：子どもたちの進捗状況を確認し、よいところなどを共有している様子



写真2：ペアで今の自分が考えている仮説を説明し、アドバイスをもらう様子



写真3：アドバイスをもとに自分の表現しやすいアプリを用いて、資料を作成している様子

児童生徒の反応や変容

- ・それぞれ異なる仮説を立てて進めているため、途中で何度も友だちと話し合うことで、自分の仮説をどうすれば立証できるかを常に考えながら資料作成をすることができていた。
- ・WordやKeynote、オクリンクなど自分が表現しやすいと思うアプリで資料をまとめることで、自分に合った資料を作成することができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・iPadを常に児童のすぐそばに置かせている。「学習や学校、学級の活動に必要でないことはしない」というグランドルールは定めているものの、基本的には休み時間も自由に使わせている。子どもの中から「この使い方はいいのか」という声が出るたびに話し合い、使い方の確認をしている。自由に使うことで自分の表現したいものに合わせてアプリを使い分けられるなど、iPadを使いこなせるようになっており、児童が驚くほどのスキルを身につけていく様子がある。